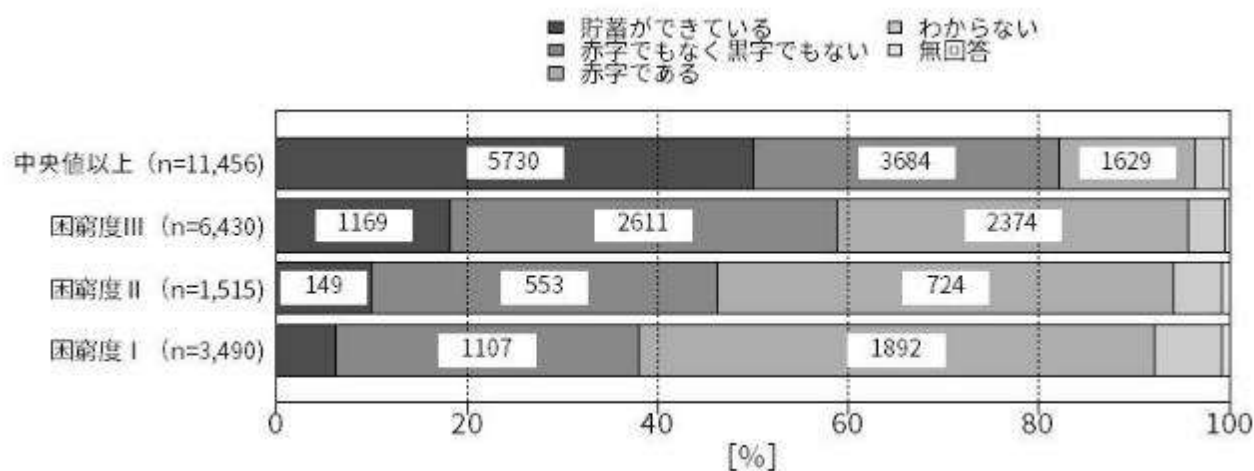


困窮度別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

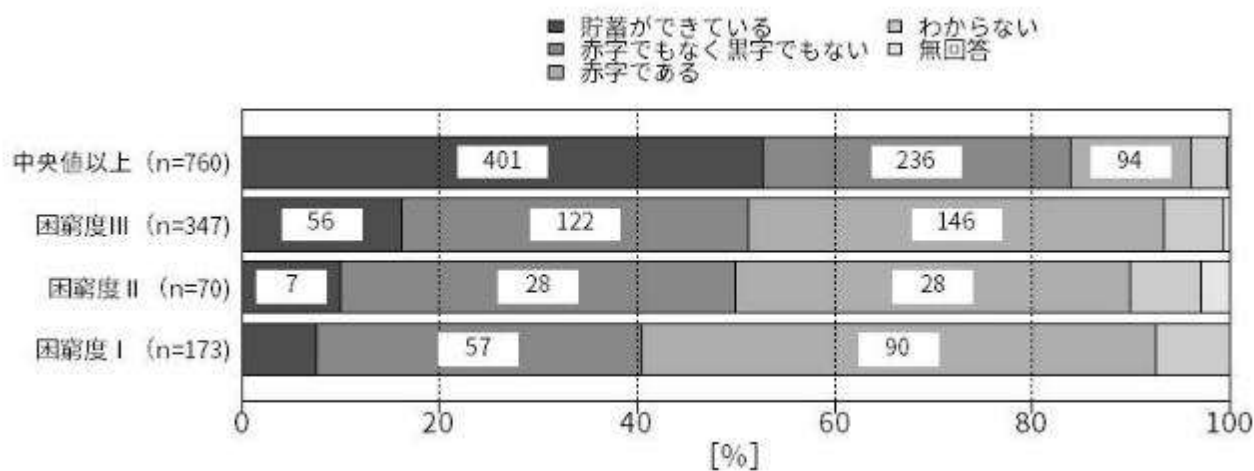
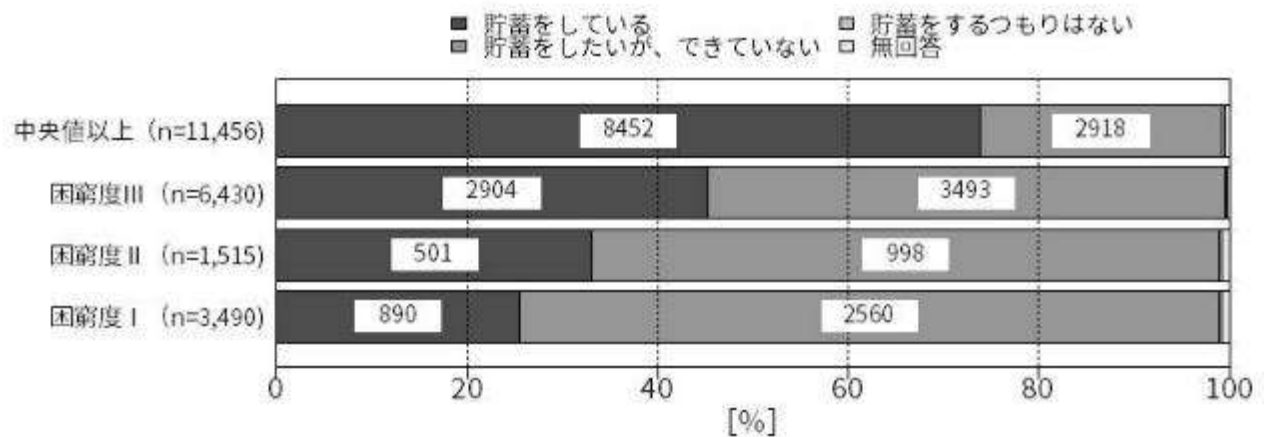


図 121. 困窮度別に見た、家計状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができている」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、12.4%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、52%となり、5割強を占めた。

困窮度別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問 6(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

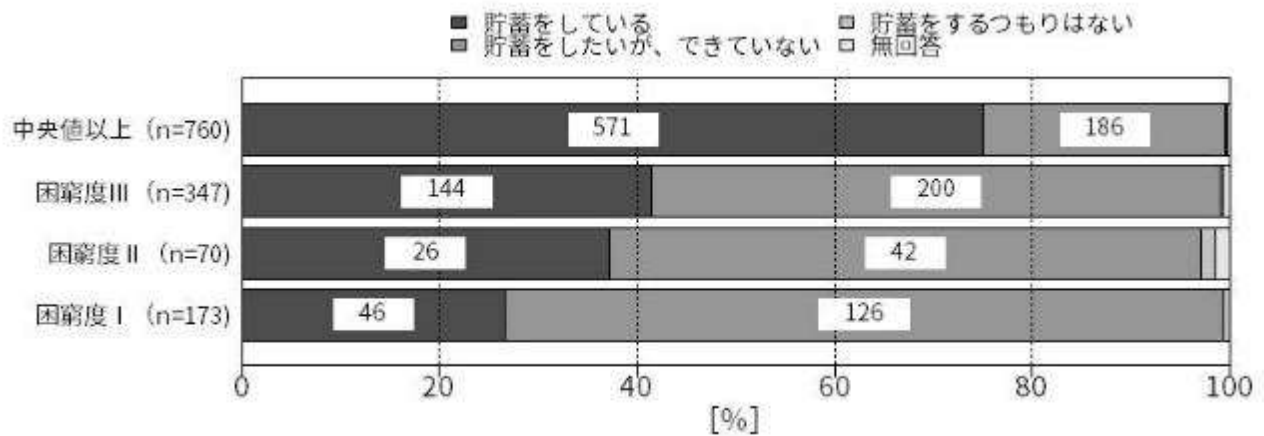
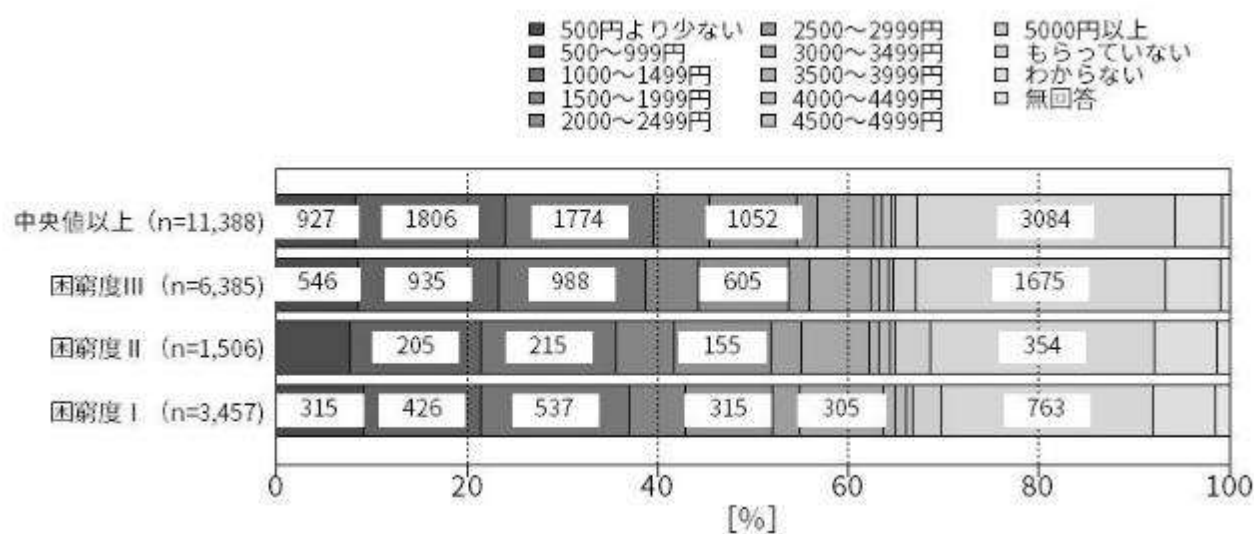


図 122. 困窮度別に見た、子どものための貯蓄

困窮度別に子どものための貯蓄を見ると、中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が 75.1%であったが、困窮度Ⅰ群では 26.6%であり、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答する割合が 72.8%であった。

困窮度別に見た、おこづかいの金額分布（子ども票 問 20(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

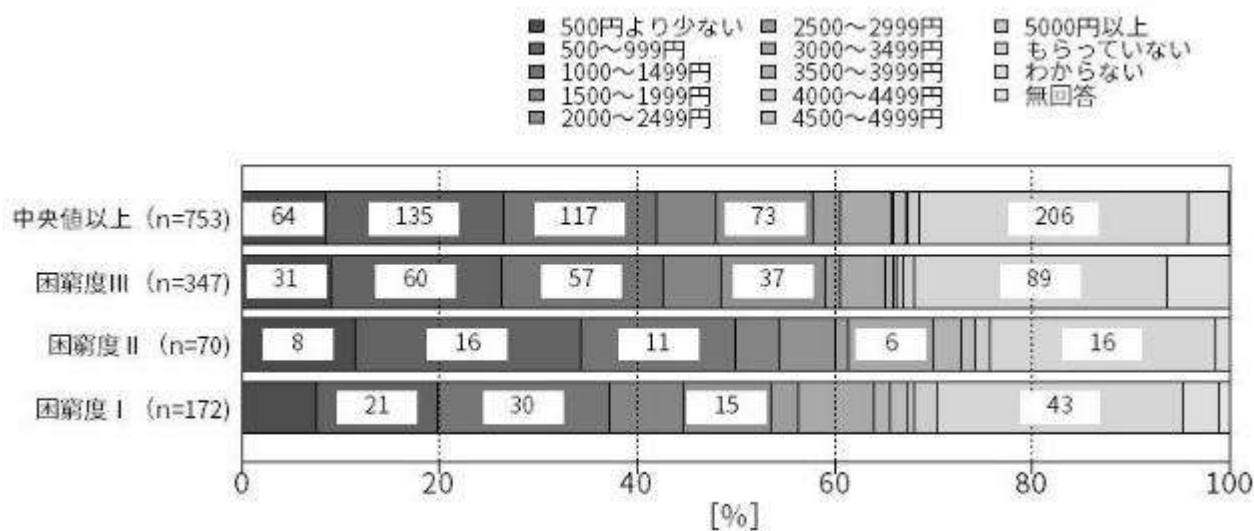
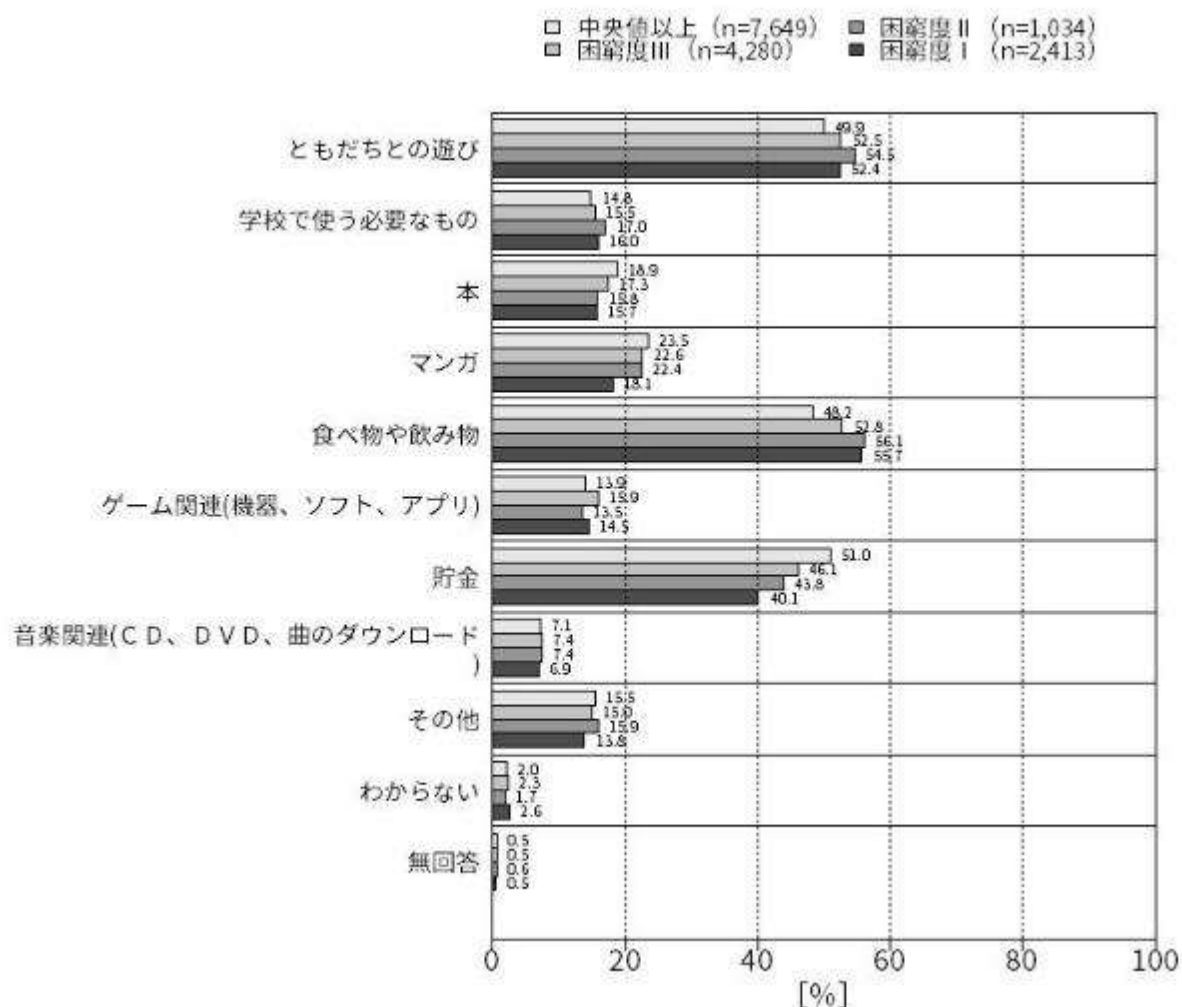


図 123. 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布

困窮度別におこづかいの金額分布を見ると、困窮度による大きな違いは見られない。おこづかいをもらっているが、その用途や必要な物は親に購入してもらっているか、など詳細をみる必要がある。

困窮度別に見た、おこづかいの使い方（子ども票 問 20(3)）

<大阪市 24 区>



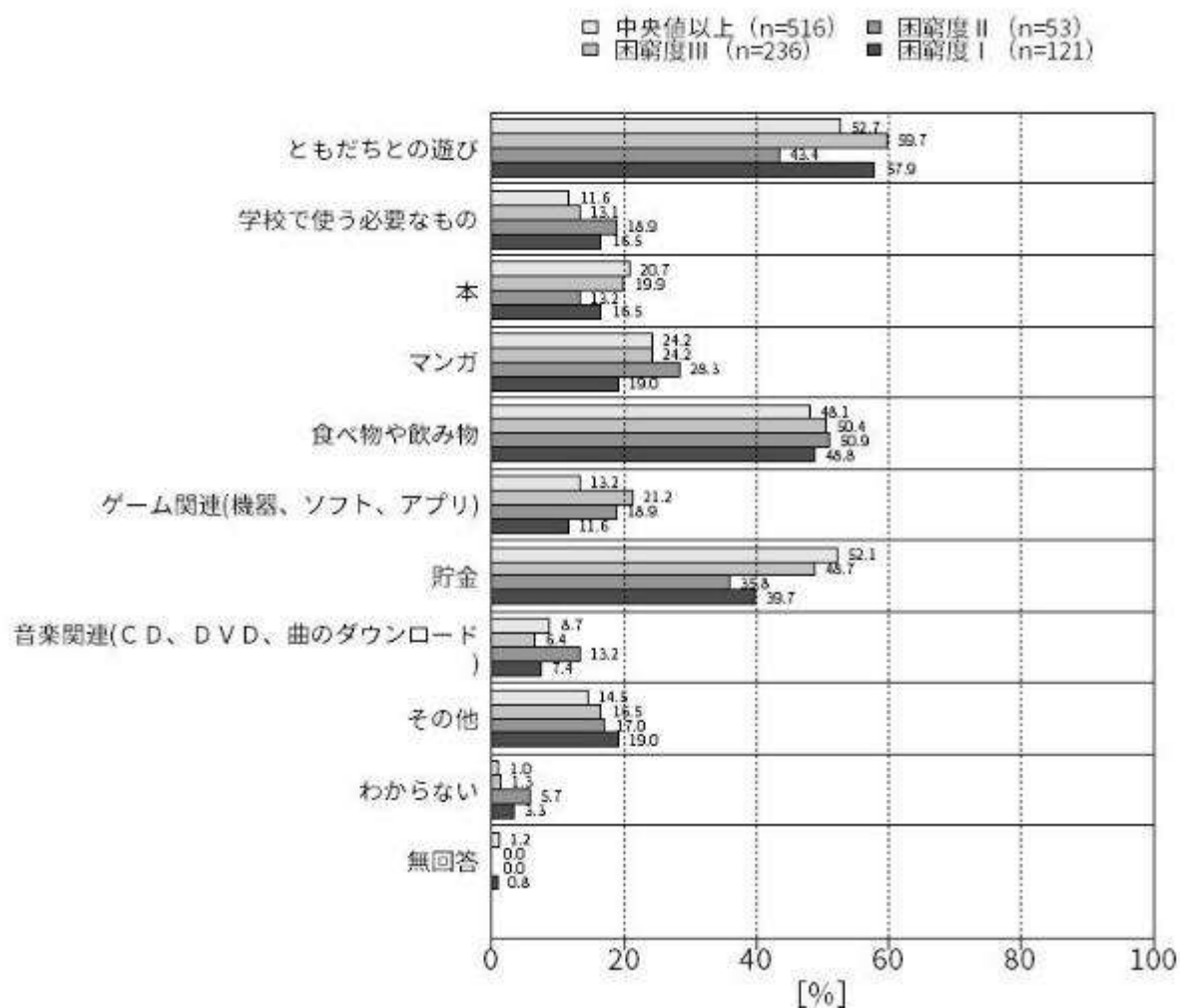


図 124. 困窮度別に見た、おこづかいの使い方

困窮度別におこづかいの使い方を見ると、「貯金」が中央値以上群 52.1%であったのに対して、困窮度Ⅱ群では 35.8%、困窮度Ⅰ群では 39.7%であった。

## ＜経済状況に関する考察＞

困窮度が深刻化するに従い、生活面での困難は増す傾向が見られた。困窮度Ⅰの群では9.8%の世帯が「電気・ガス・水道などが止められた」、6.9%の世帯が「医療機関を受診できなかった」、11.6%の世帯が「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」、と回答している。これらの質問項目に対して、中央値以上の群において、経験があると回答した世帯は1%未満であり、生活面での格差が明確に表れている。保険料などの滞納は、中央値以上の群では2%以下にとどまっているのに対して、困窮度が深刻になるほど高い割合になっており、困窮度Ⅰの群では20%前後の世帯が該当すると回答している。

「国民年金の支払いが滞ったことがある」という項目に関しては、保護者が将来においても生活困窮に陥る可能性を示唆するデータでもあるため、看過することができない。このような経済状況は、保護者の心理的な面にも反映されており、「生活の見通しが立たなくて不安になったことがある」と回答した世帯は、中央値以上の群では9.7%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では47.4%であった。なお、経済的理由で生じた生活上の困難に関する質問項目は、現代の日本社会において通常は経験しないことが想定されている。質問項目について「どれにも当てはまらない」と回答した世帯は、中央値以上では34.7%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では3.5%であった。

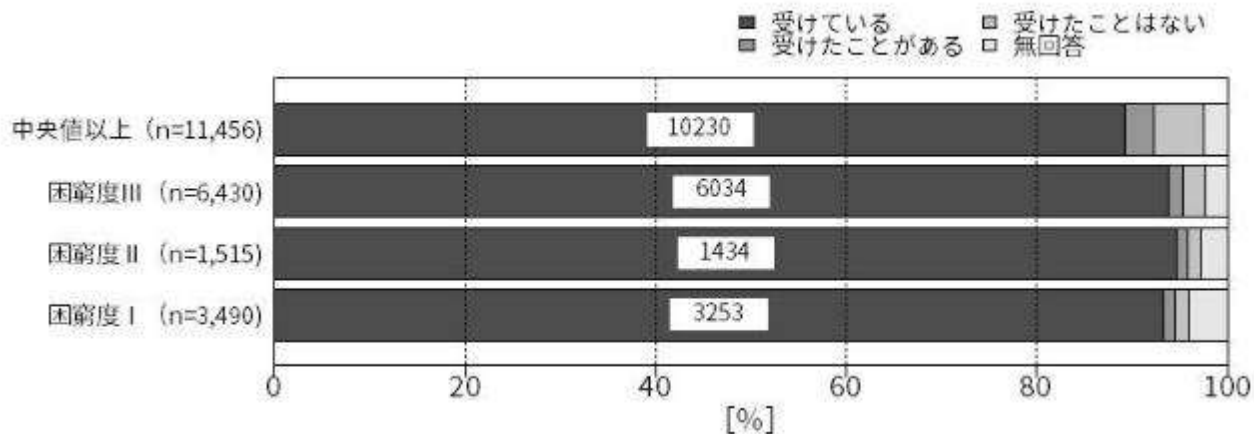
世帯の経済状況は、子どもの生活にも影響を与えていることが確認できる。たとえば、困窮度Ⅰの群では「子どもを医療機関に受診させることができなかった」世帯は4.0%で、「子どもの進路を変更した」世帯は4.6%であった。中央値以上の群では該当すると回答した世帯はともに1%に満たなかった。所得の差は、学習面の機会の差にも表れている。「子どもを習い事に通わすことができなかった」が、中央値以上の群では4.3%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では24.3%、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が中央値以上の群で5.7%であったのに対して困窮度Ⅰの群では23.1%と少なくとも約4倍の差が生じている。この差は、ヒューマンキャピタルの面で子どもの将来に影響を与えることが予想される。学校外で多様な「体験」をすることも、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想される。しかし、調査結果ではこの点においても格差があることが明らかになった。たとえば、「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」という回答は、中央値以上の群で8.9%であったのに対して困窮度Ⅰの群では44.5%であった。

なお、中央値以上の群では68.2%が「どれにもあてはまらない」、すなわち、子どもに困難なく資源や機会を提供できていると回答している。子どもに対して困難なく資源や機会が提供できている世帯も多数いるという点にも留意しておく必要があるだろう。なお、子どものために貯蓄ができている世帯は、中央値以上の群では75.1%なのに対して、困窮度Ⅰの群では26.6%に過ぎない。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、児童手当（保護者票 問 30(3)①)

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

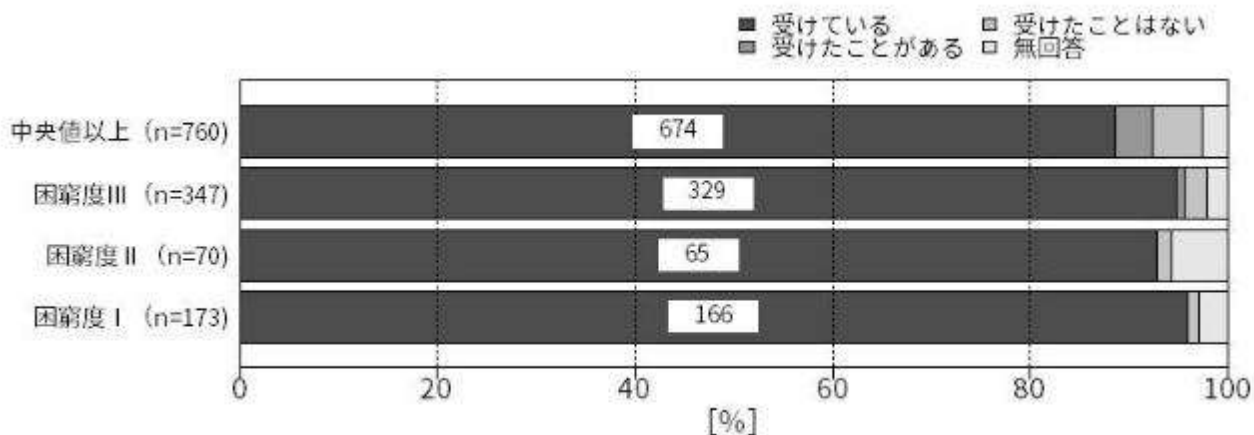
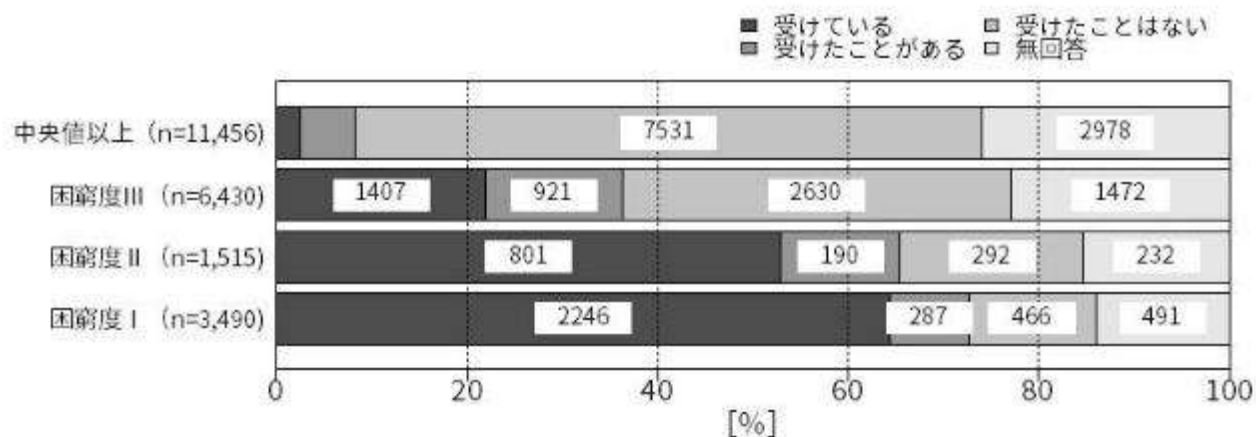


図 125. 困窮度別に見た、児童手当

児童手当は多くの世帯が受給していた。困窮度別に児童手当の受給率を見ると、困窮度Ⅰ～Ⅲ群において、とりわけ多くの世帯（92.9%～96.0%）が「受けている」に回答した。

困窮度別に見た、就学援助費（保護者票 問 30(3)②）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

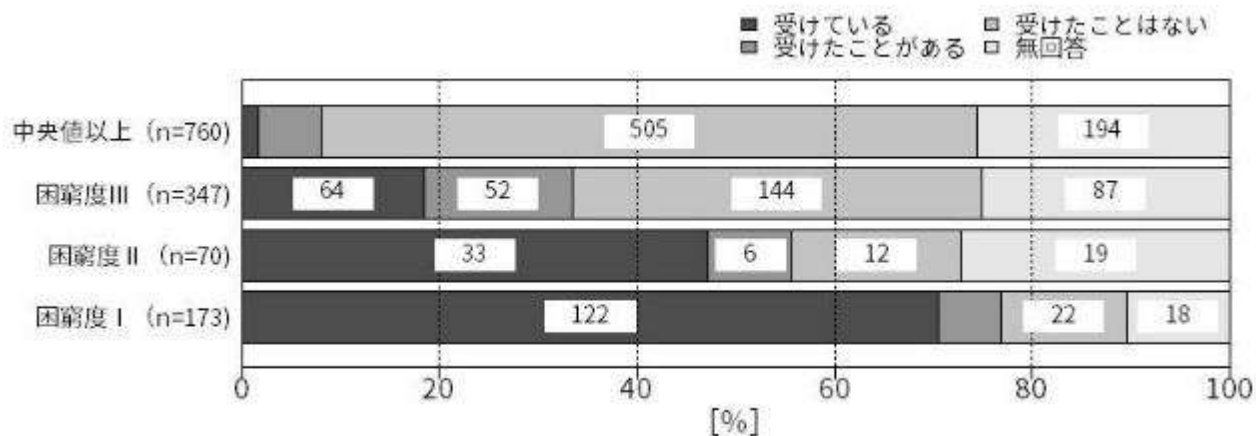


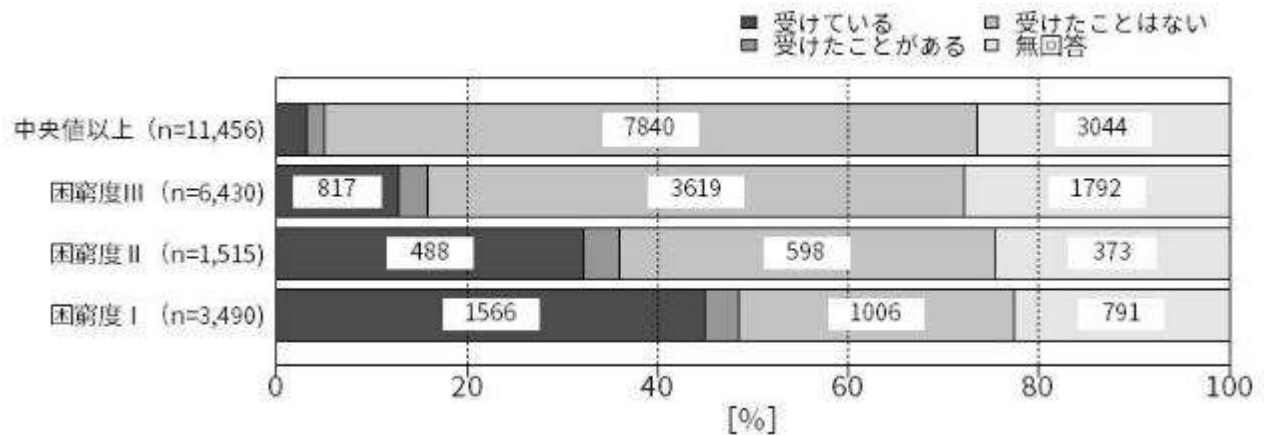
図 126. 困窮度別に見た、就学援助費

困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。



困窮度別に見た、児童扶養手当（保護者票 問 30(3)③）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

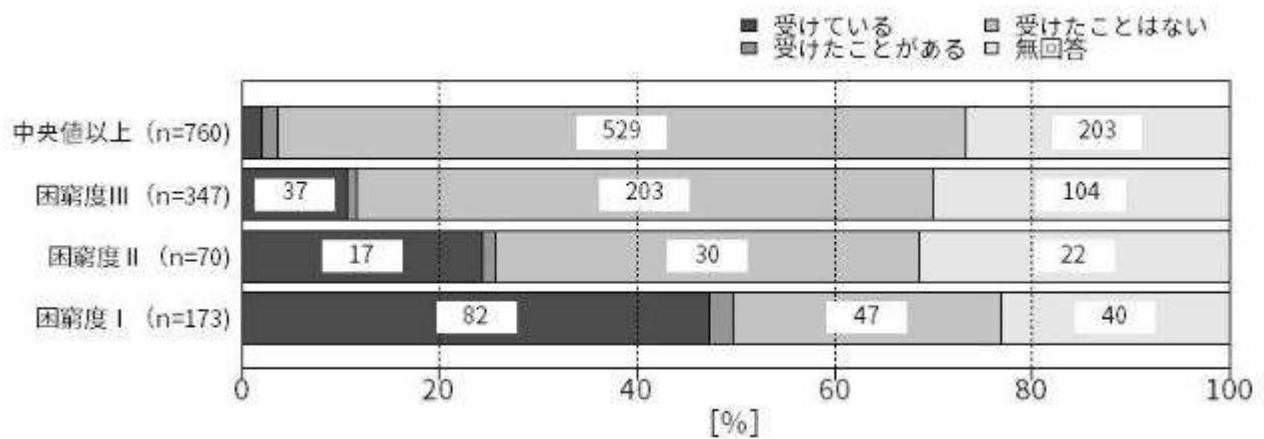


図 127. 困窮度別に見た、児童扶養手当

困窮度別に児童扶養手当の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。さらに、以下に、ひとり親世帯のなかでの児童扶養手当の受給状況を示す。困窮度Ⅰでも「受けたことがない」が 5.4%、無回答が 8.6%存在する。

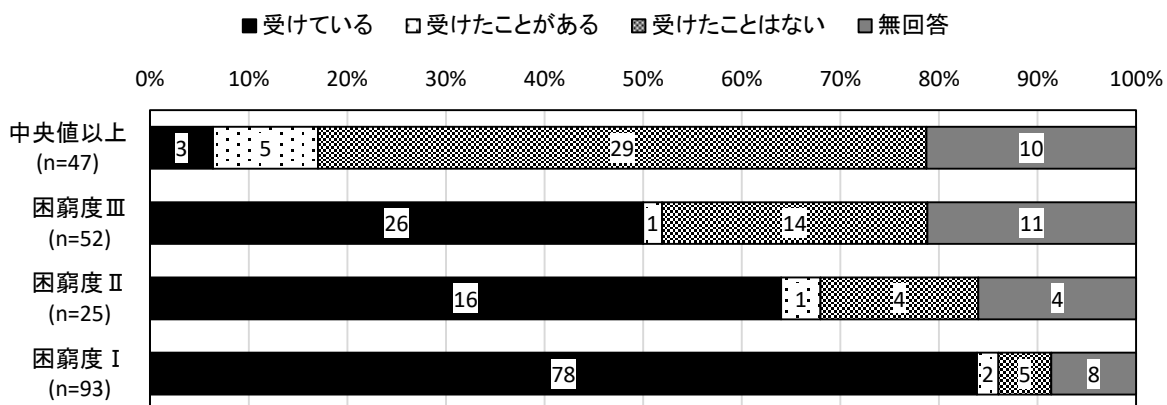
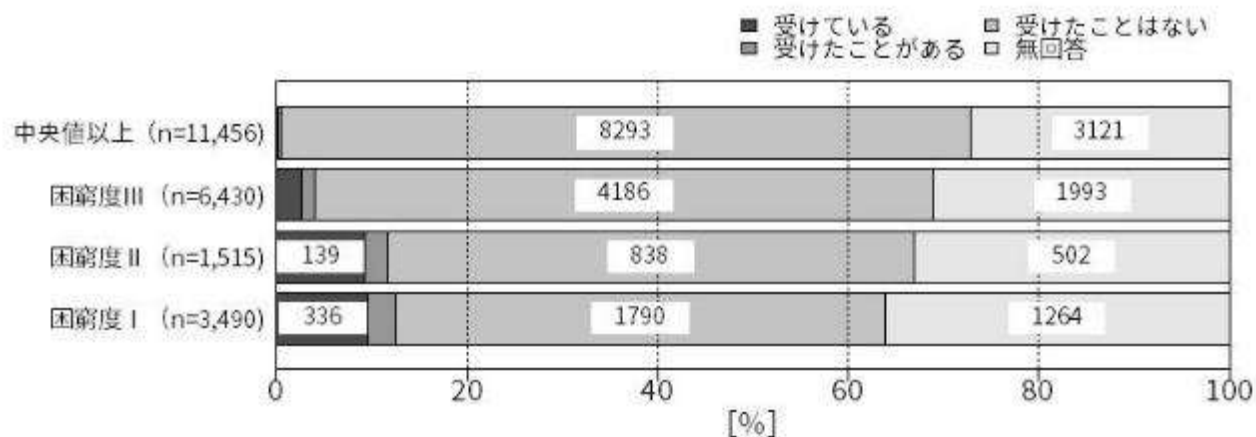


図 127 の補足図. 困窮度別に見た、児童扶養手当（ひとり親）

困窮度別に見た、生活保護（保護者票 問 30 (3) ⑤)

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

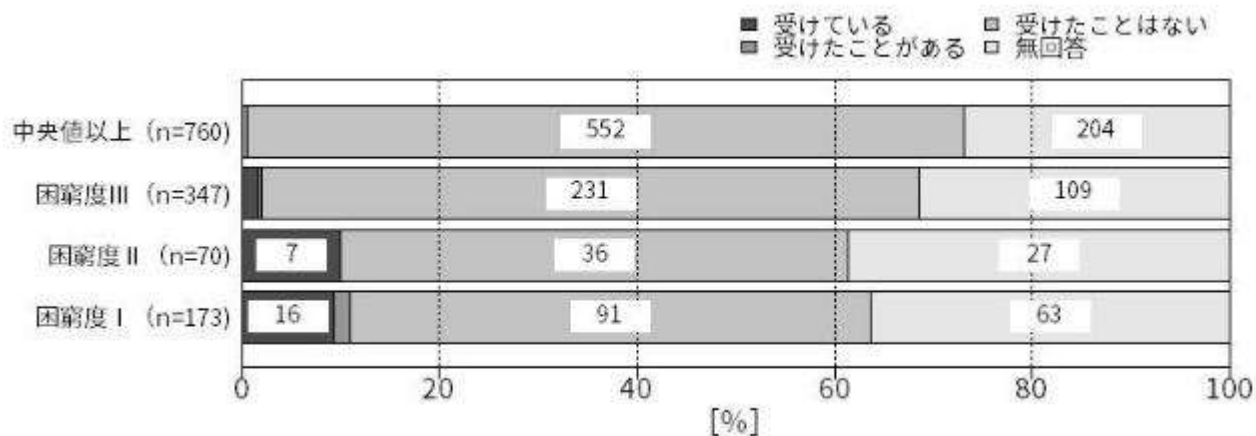


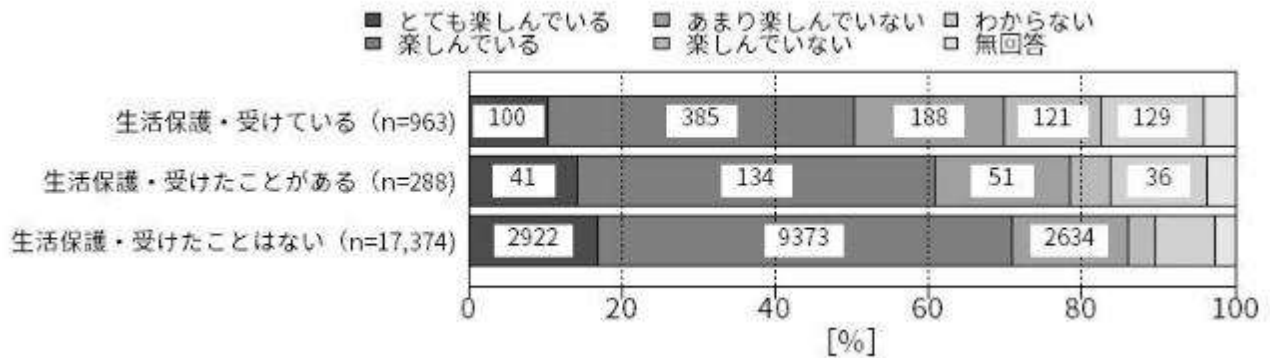
図 128. 困窮度別に見た、生活保護

困窮度別に生活保護の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は9.2%であった。困窮度が高まるにつれ、無回答の割合が高くなっている傾向にあった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

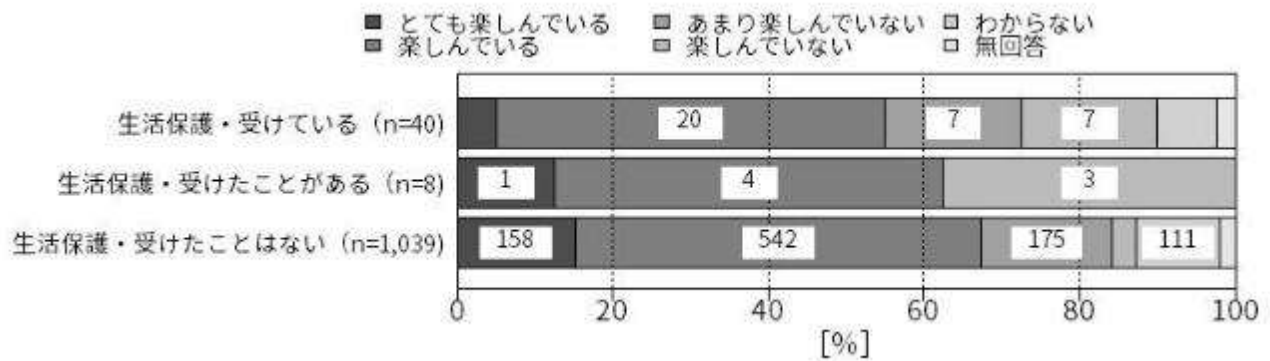


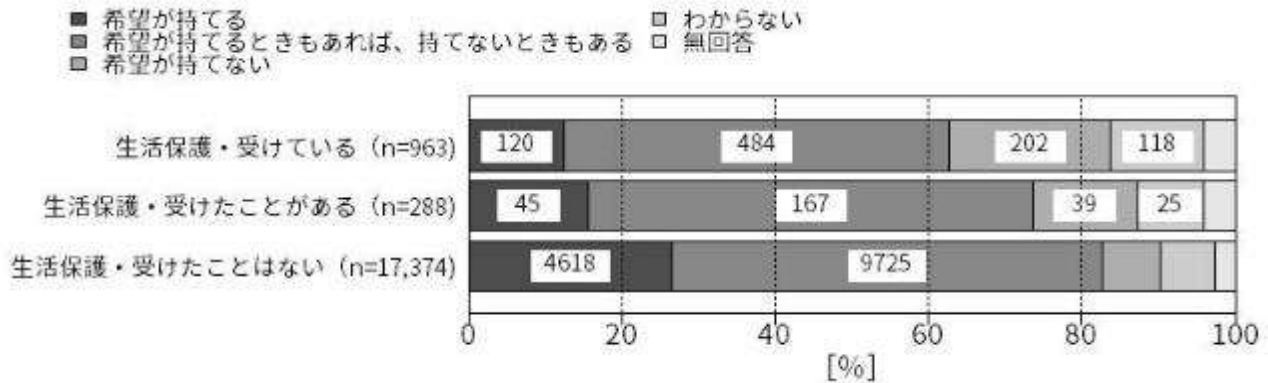
図 129. 生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、生活を「楽しんでいる」という回答が 17.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 3.1%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

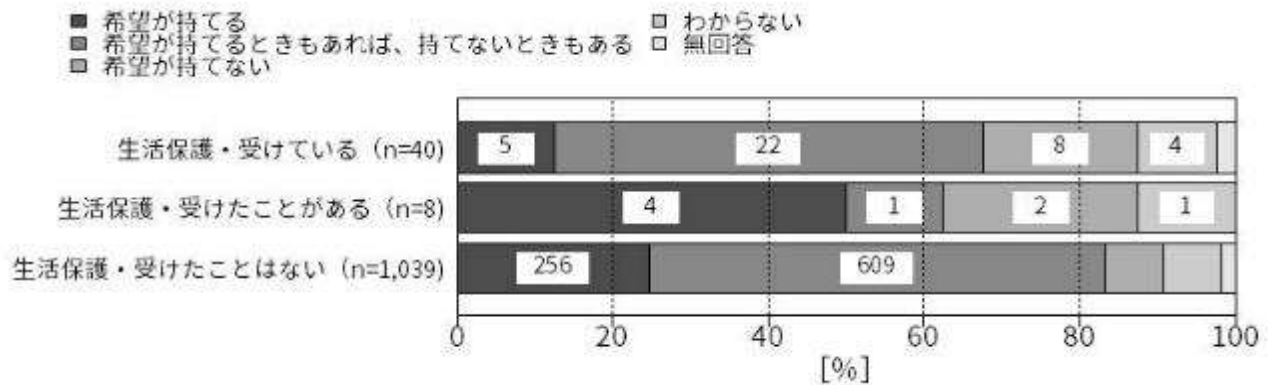
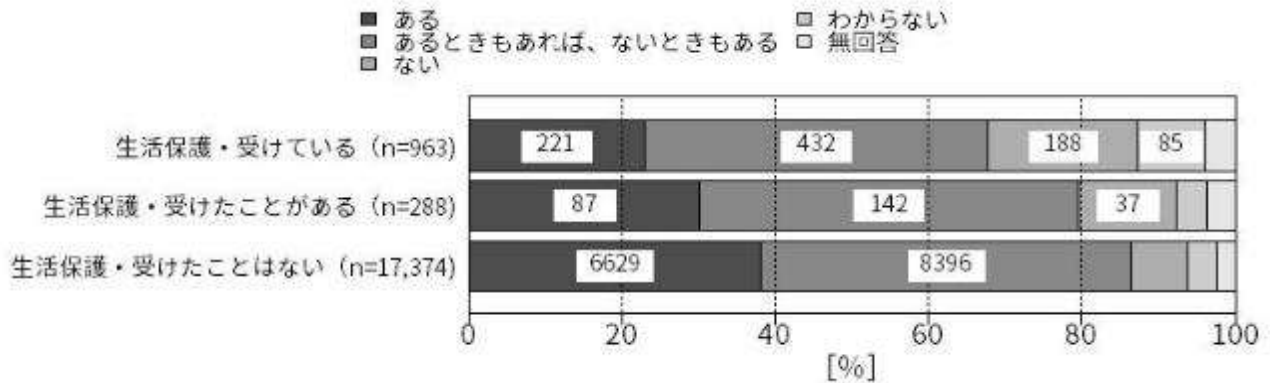


図 130. 生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、将来に対して「希望が持てない」という回答が 20.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 7.5%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）  
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

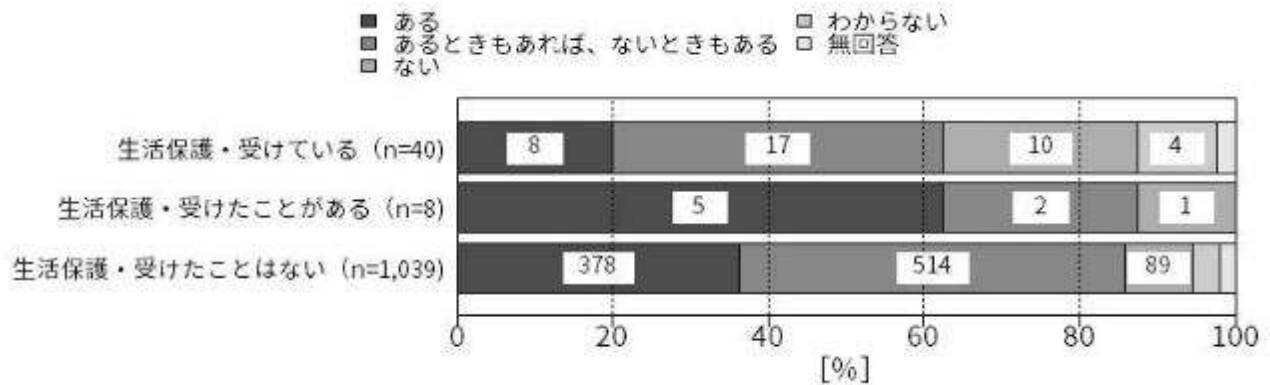


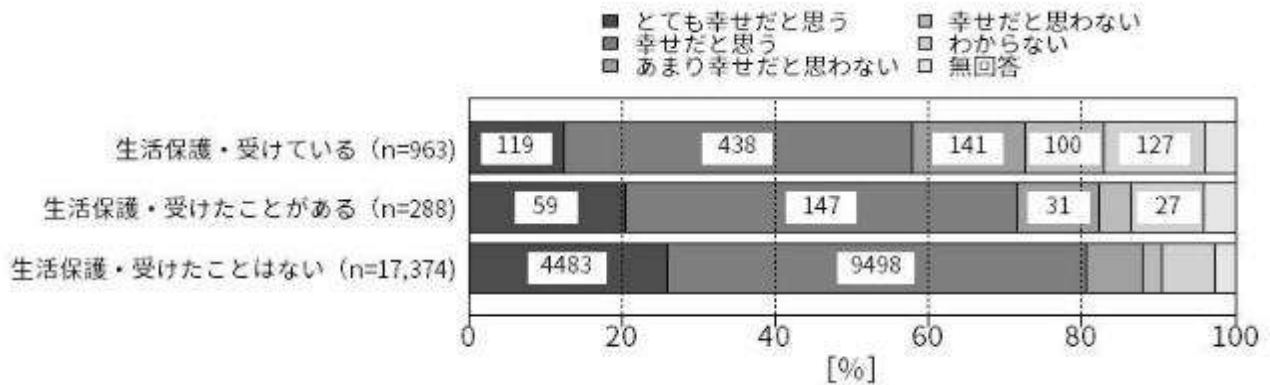
図 131. 生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、ストレスを発散できるものが「ない」という回答が 25.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 8.6%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

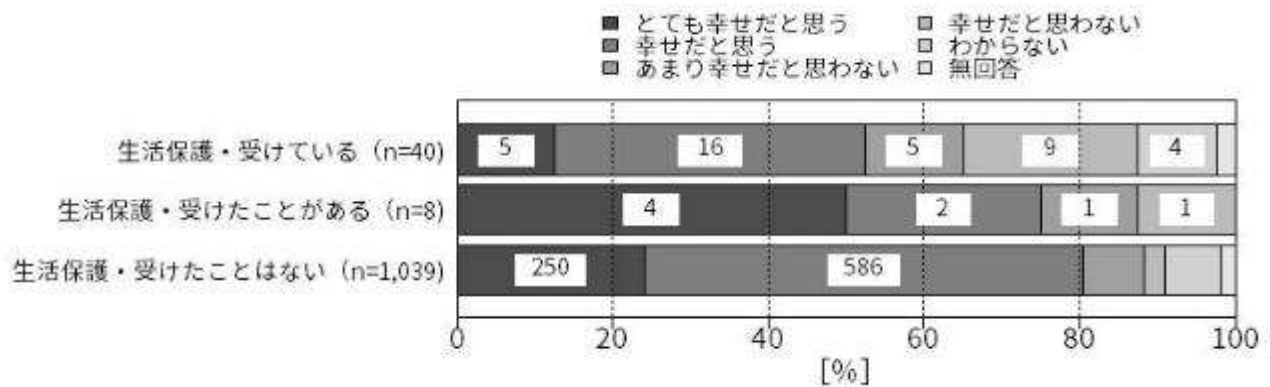
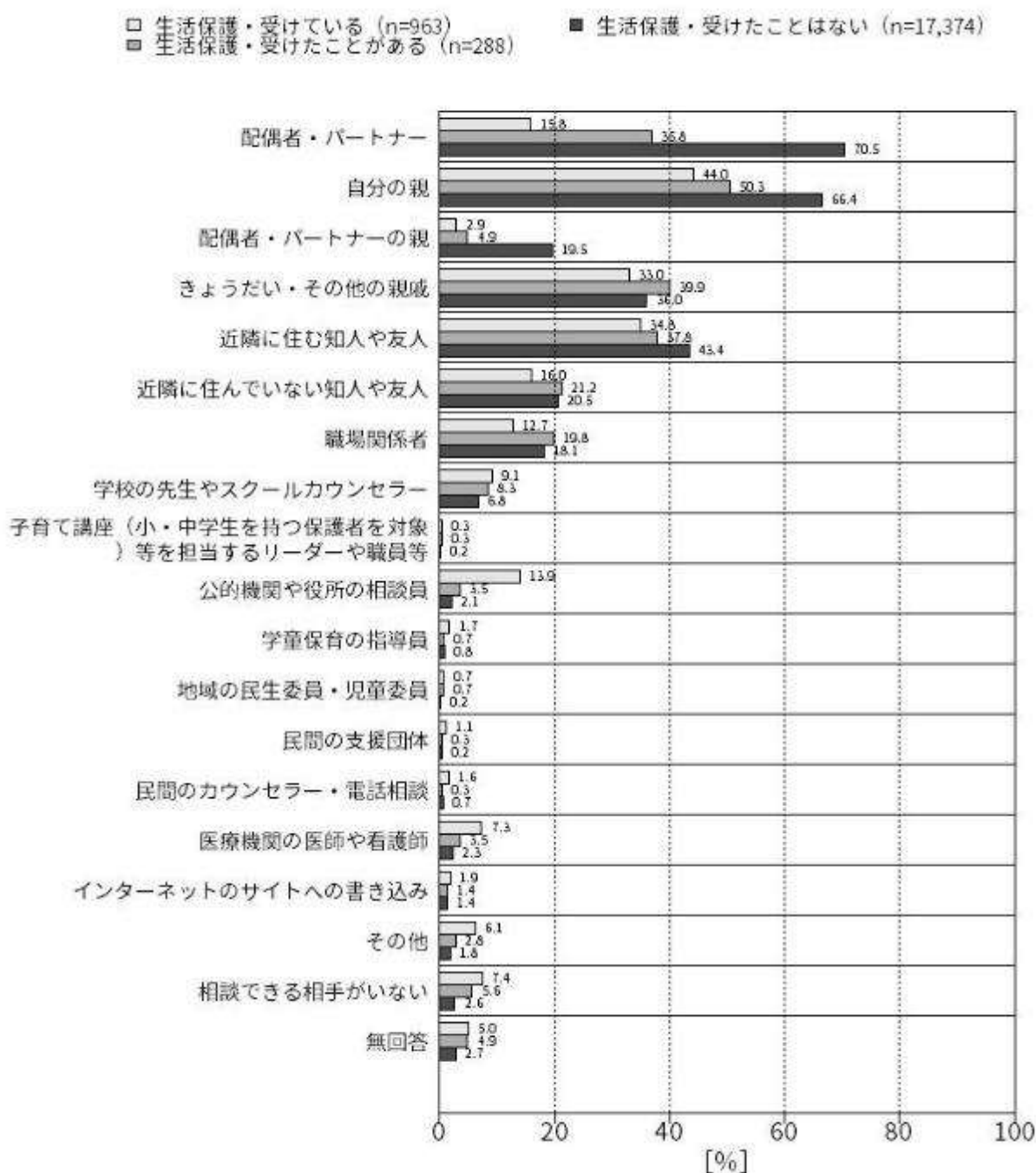


図 132. 生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、「幸せだと思わない」という回答が 22.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 2.6%であった。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

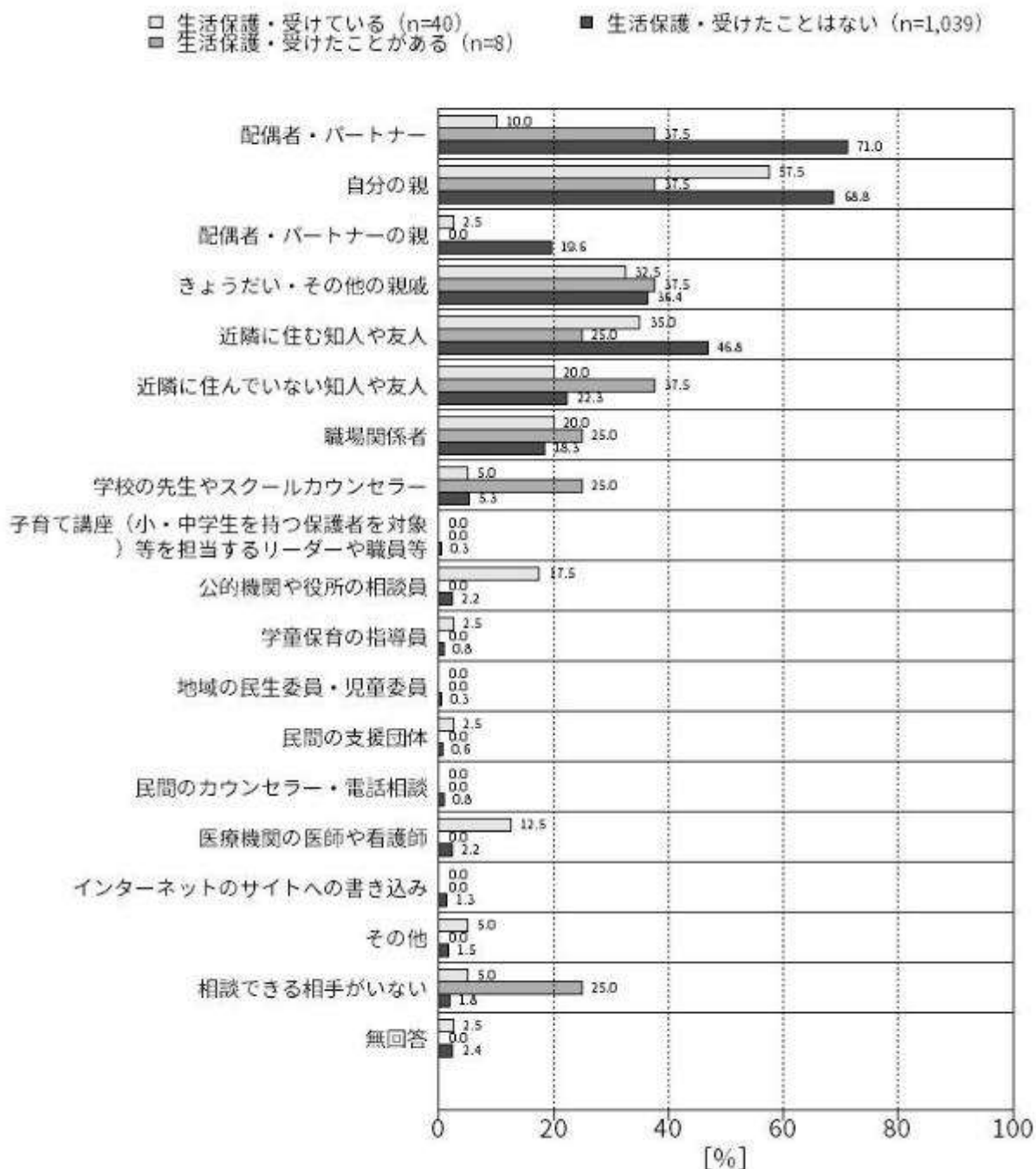


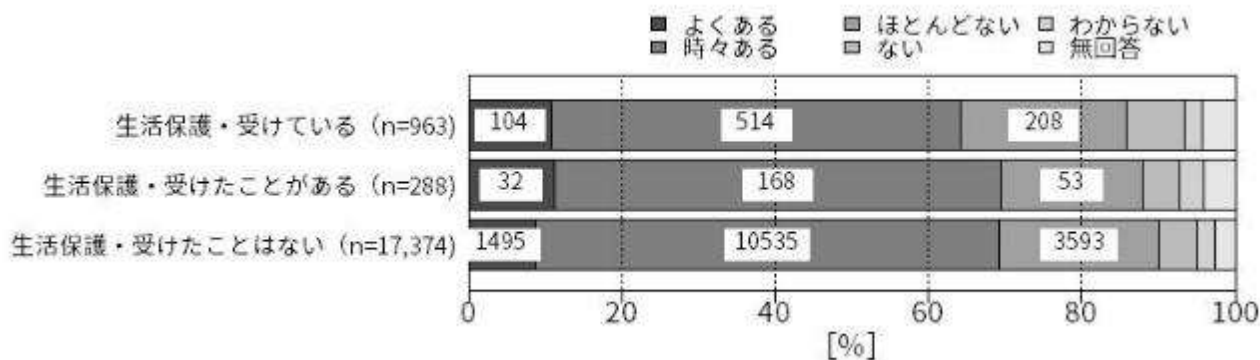
図 133. 生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、「相談できる相手がいない」という回答が 5.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 1.8%であった。



生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと  
(保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

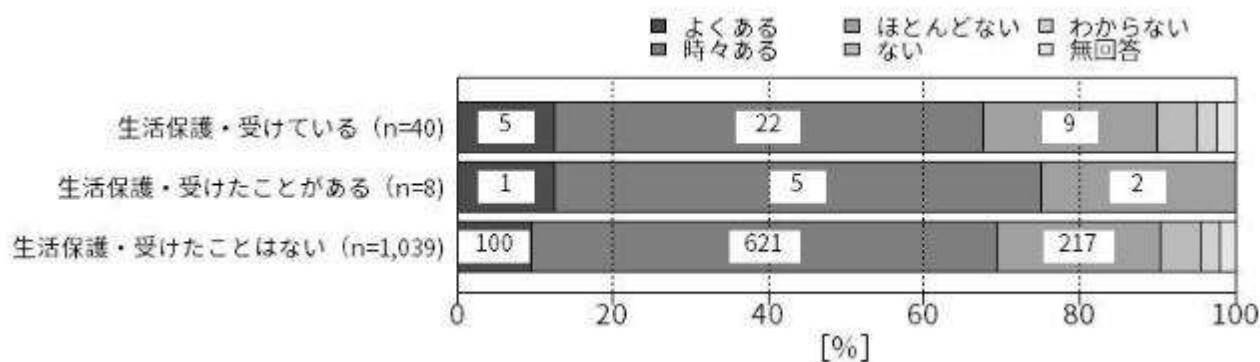
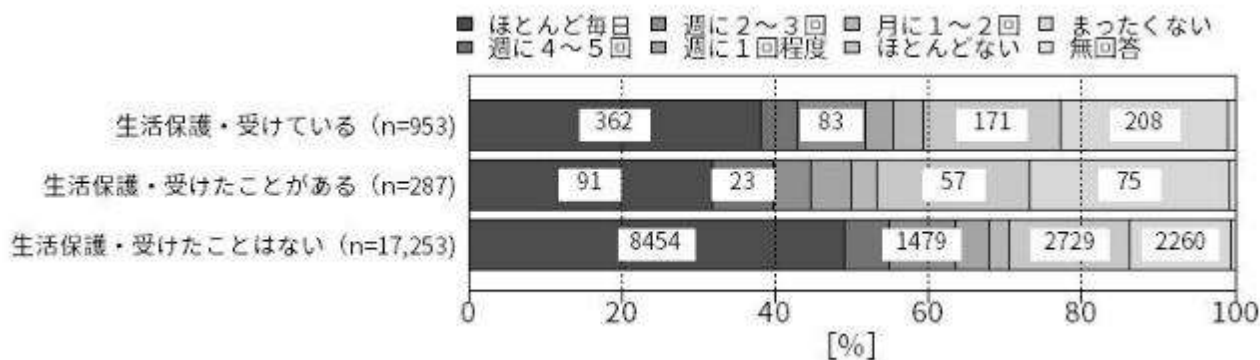


図 134. 生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」と回答した人が 12.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 9.6%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）  
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10①）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

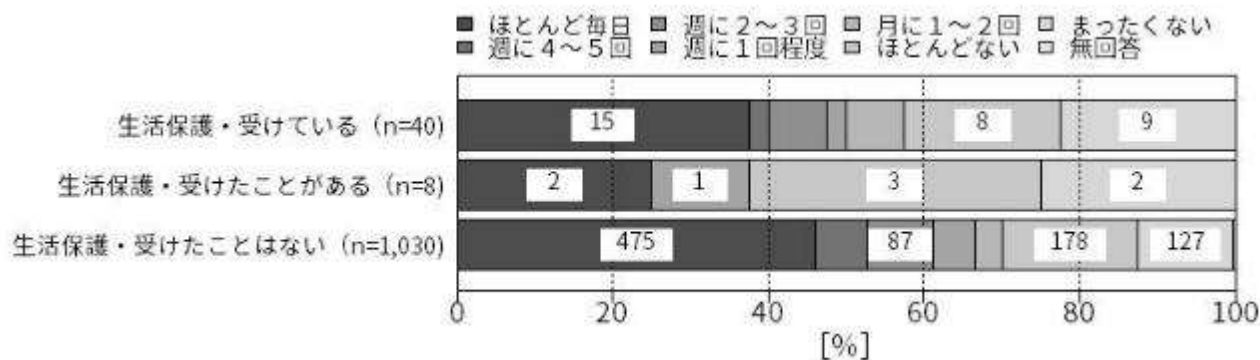
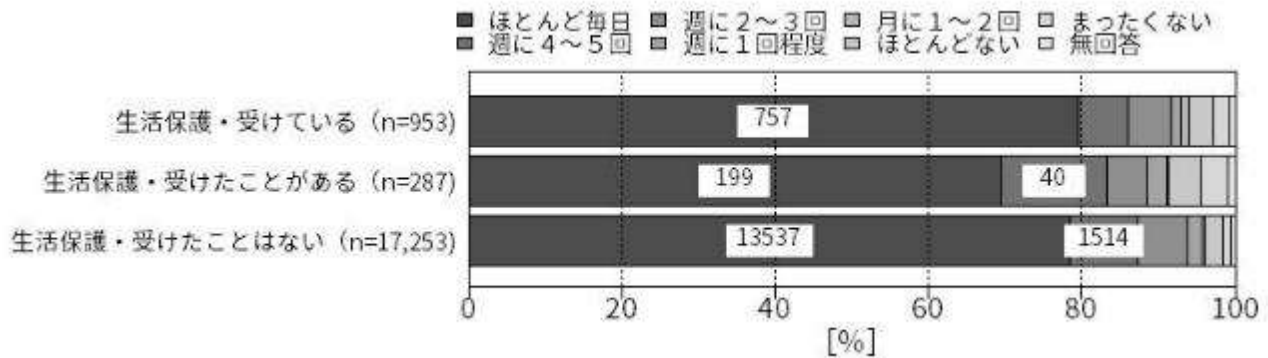


図 135. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （おうちの大人と朝食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べることが「まったくない」と回答した子どもが 22.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 12.3%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）  
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10②）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

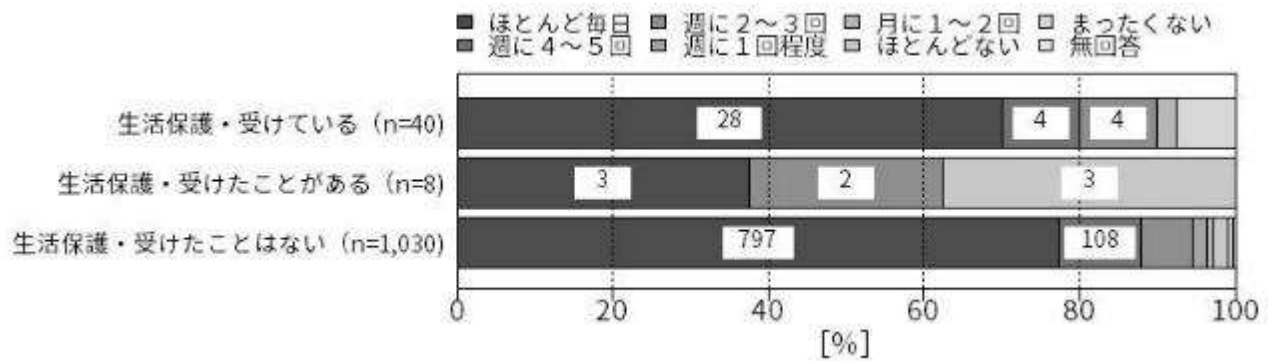
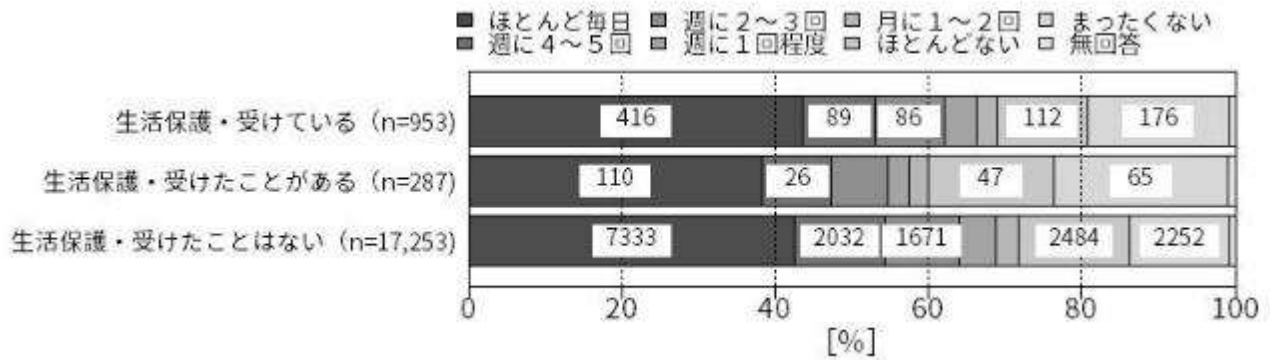


図 136. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （おうちの大人と夕食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べることが「ほとんど毎日」と回答した子どもが 70.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 77.4%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に朝、起こされるか）  
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10③）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

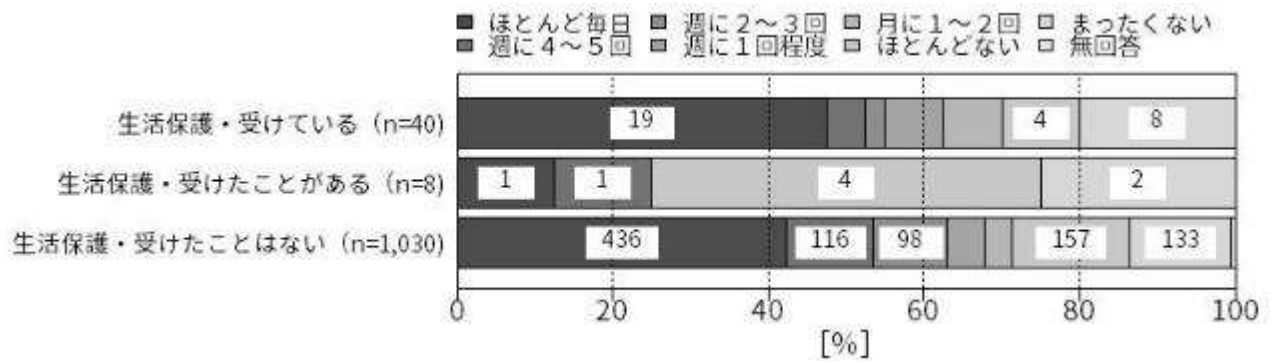


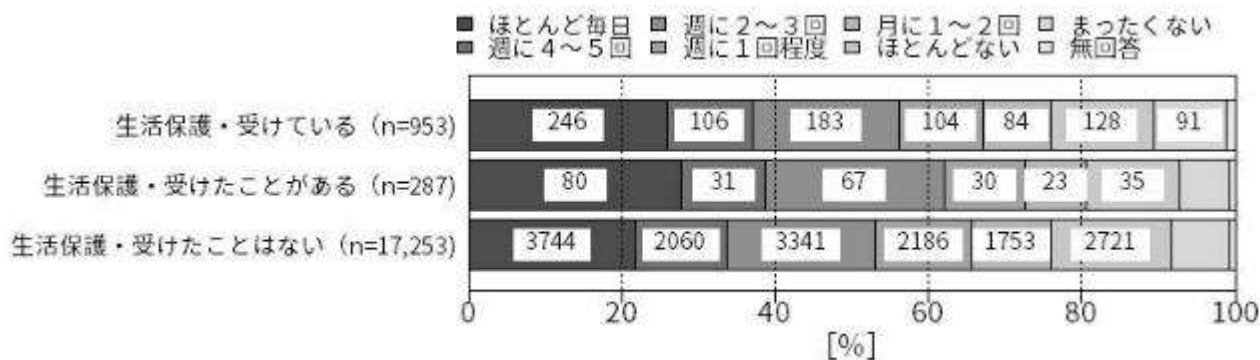
図 137. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （おうちの大人に朝、起こされるか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10④）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

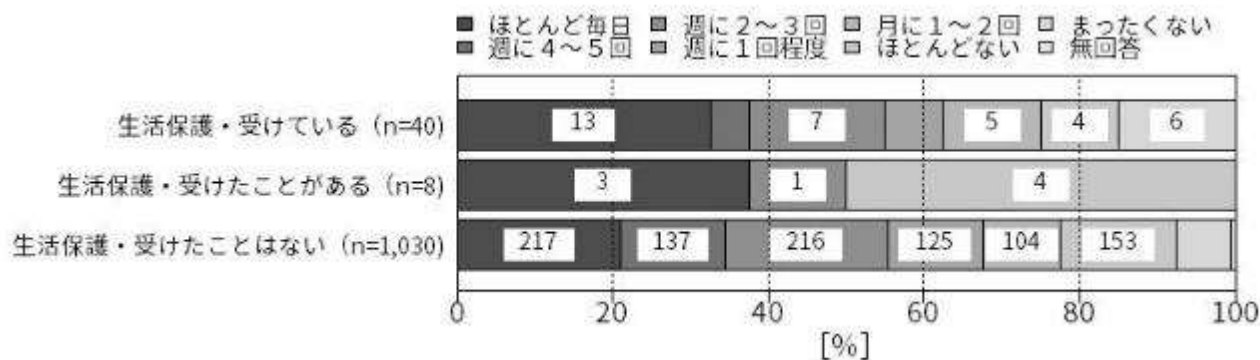
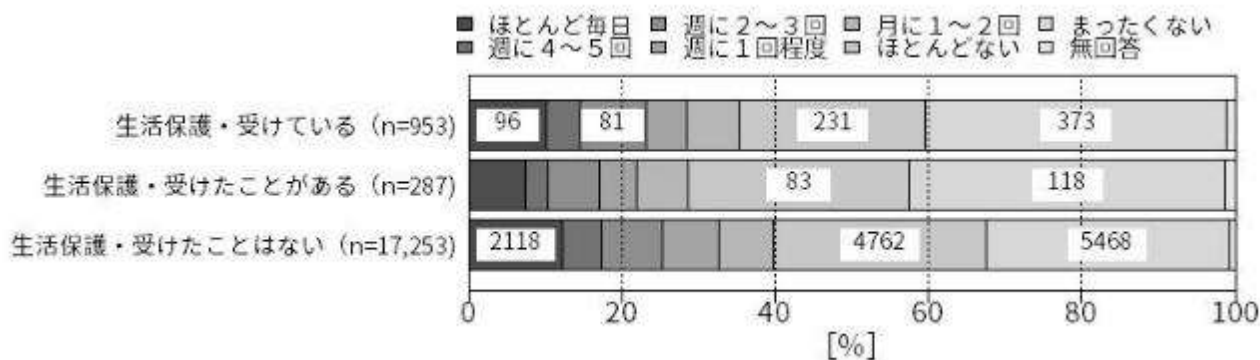


図 138. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
（家の手伝いをするか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの手伝いをするのが「まったくない」と回答した子どもが 15.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 7.0%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）  
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑤）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

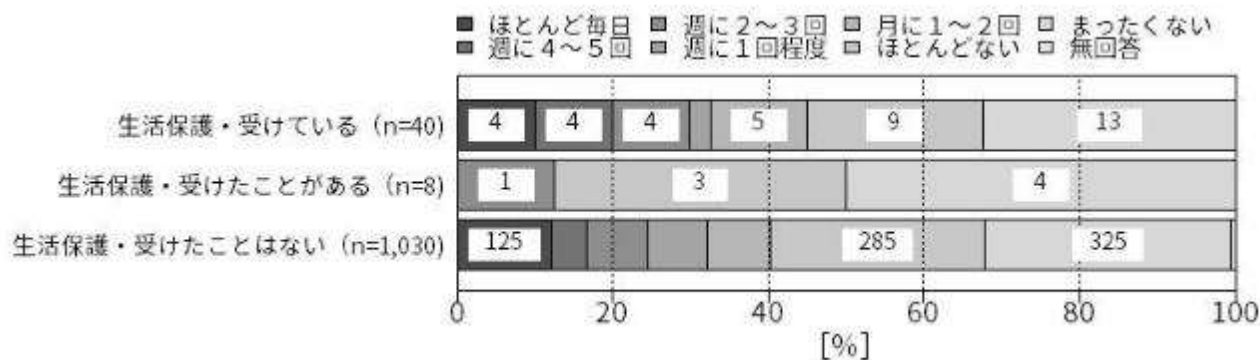
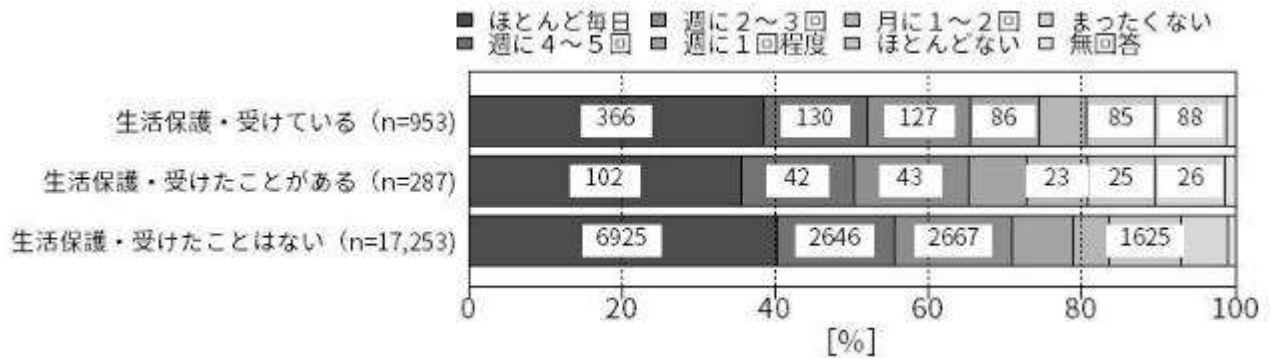


図 139. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうことが「まったくない」と回答した子どもが 32.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 31.6%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）  
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑥）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

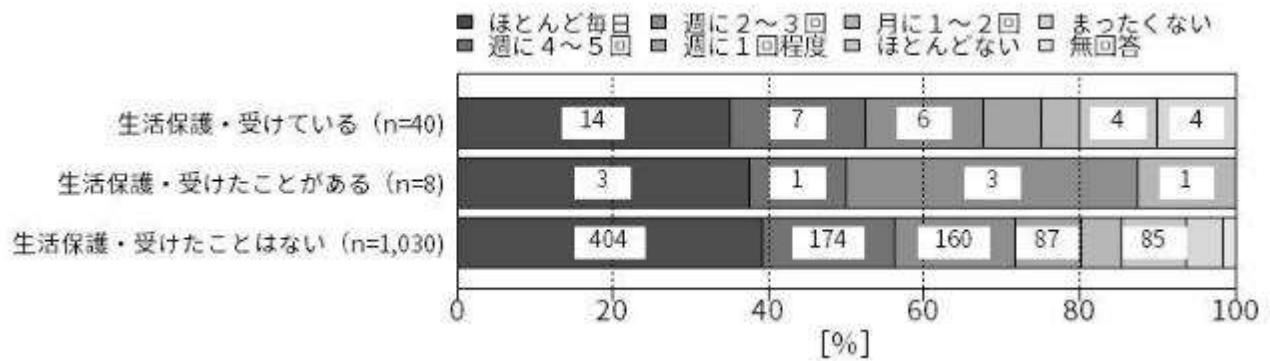
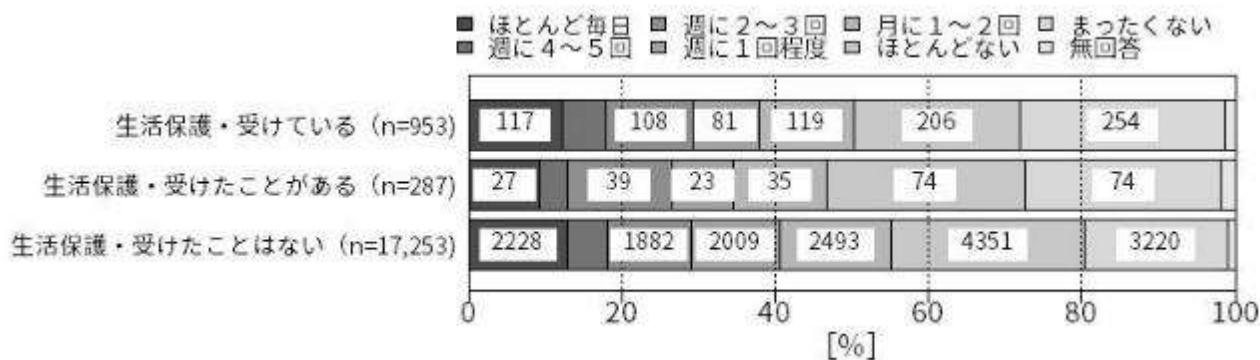


図 140. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （おうちの大人と学校の話をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すことが「まったくない」と回答した子どもが 10.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 4.7%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）  
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑦）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

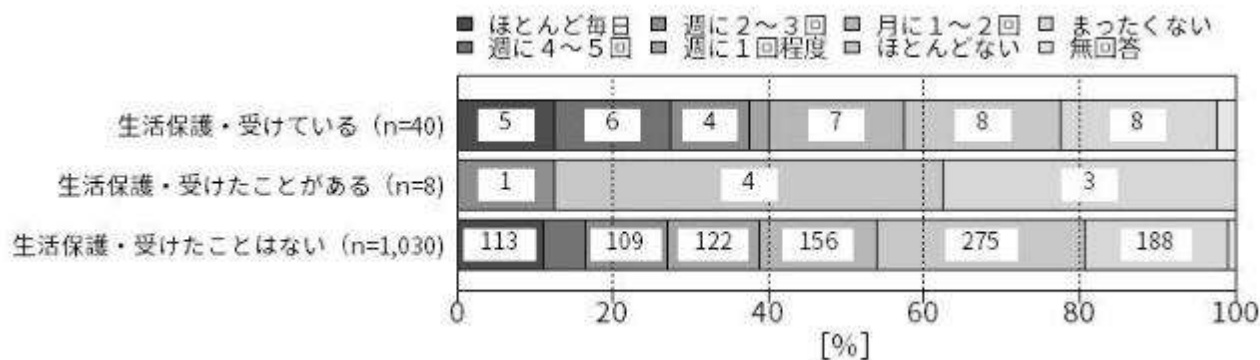


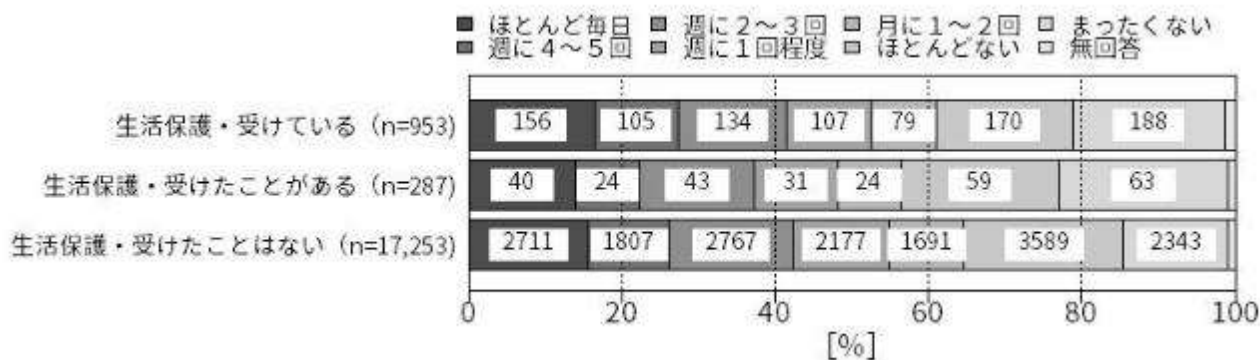
図 141. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったくない」と回答した子どもが 20.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 18.3%であった。



生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）  
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑧）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

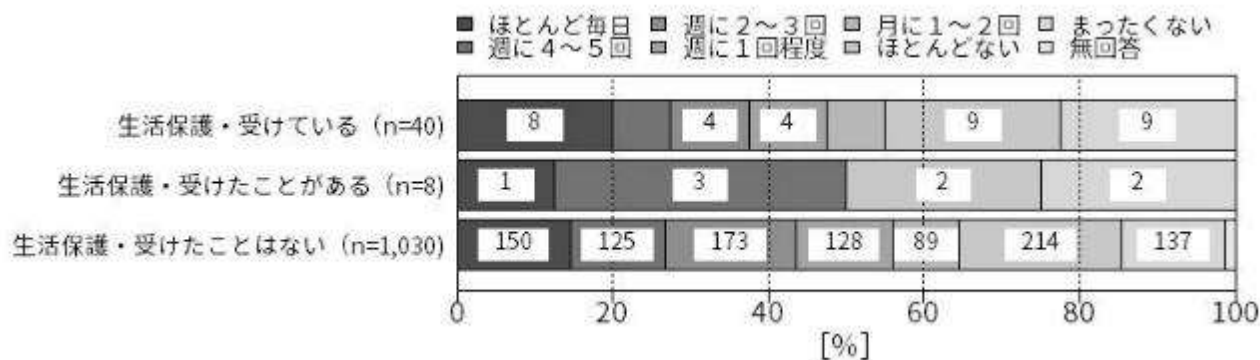
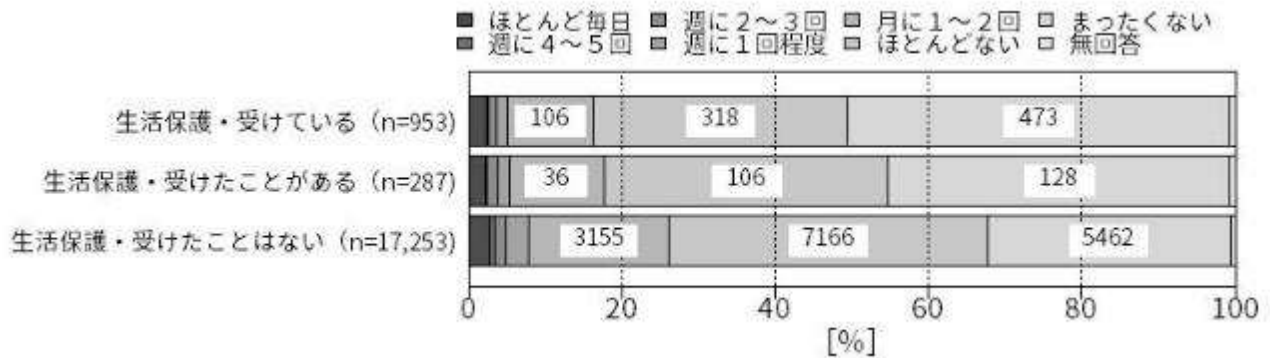


図 142. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話し合うことが「まったくない」と回答した子どもが 22.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 13.3%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）  
 （保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑨）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

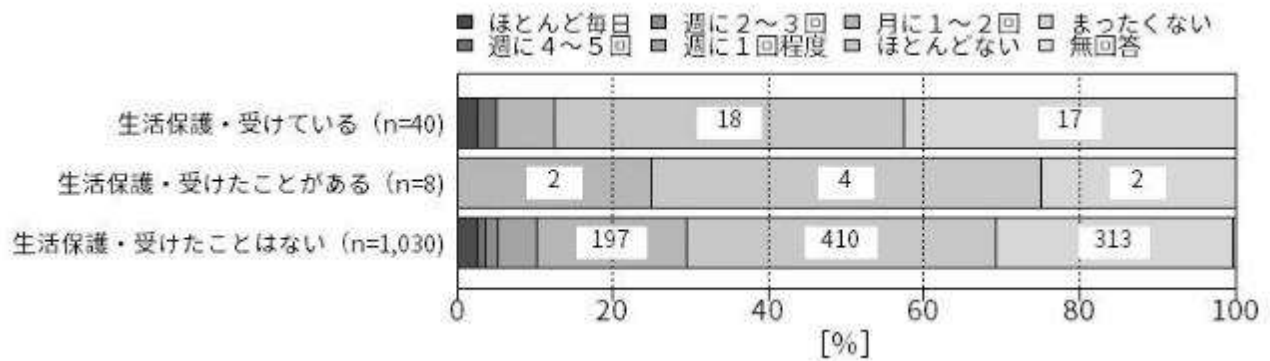
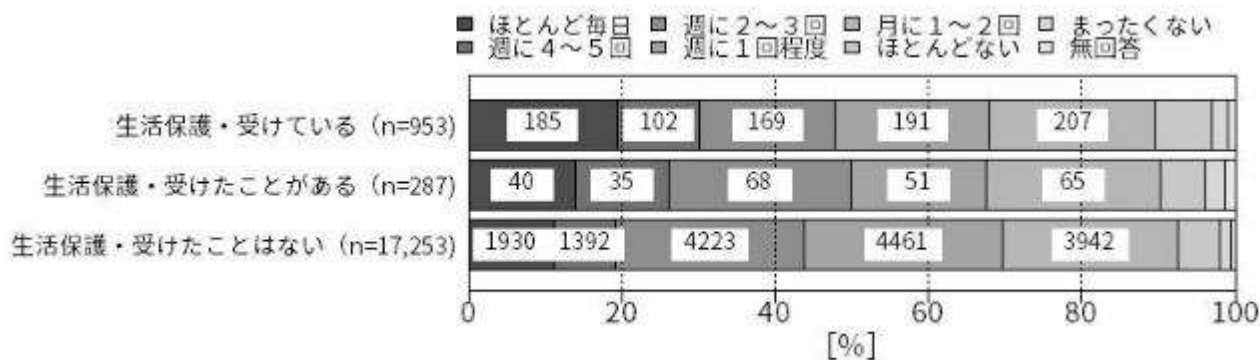


図 143. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （おうちの大人と文化活動をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と文化活動をするのが「まったくない」と回答した子どもが 42.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 30.4%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）  
（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 10⑩）

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

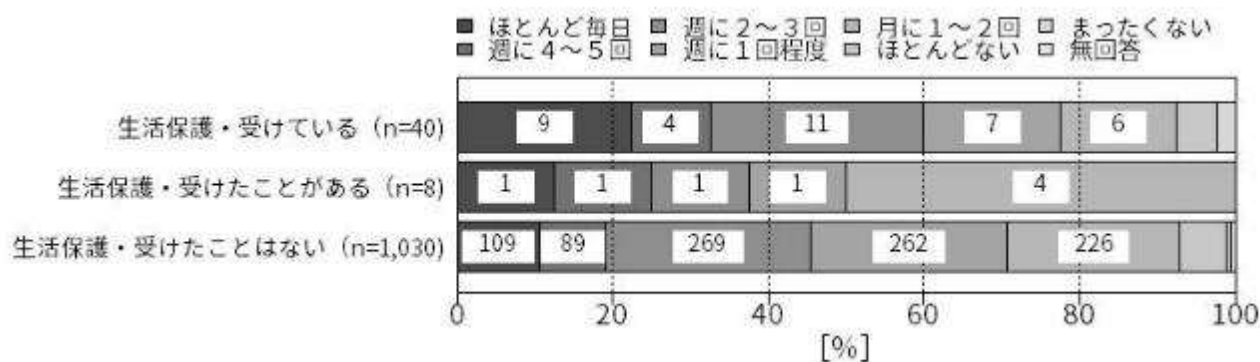
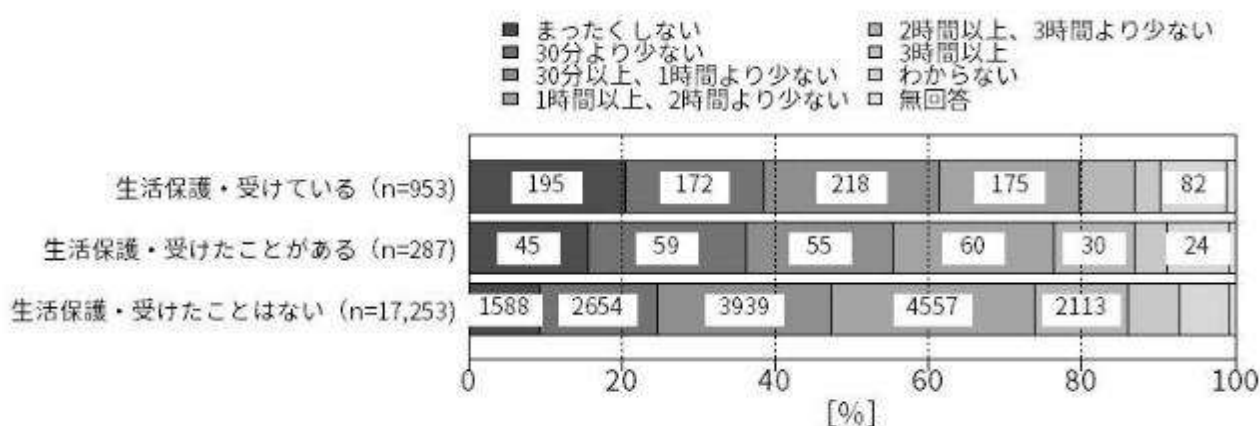


図 144. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり  
（おうちの大人と一緒に外出するか）

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に外出することが「まったくない」と回答した子どもが 2.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 0.8%であった。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

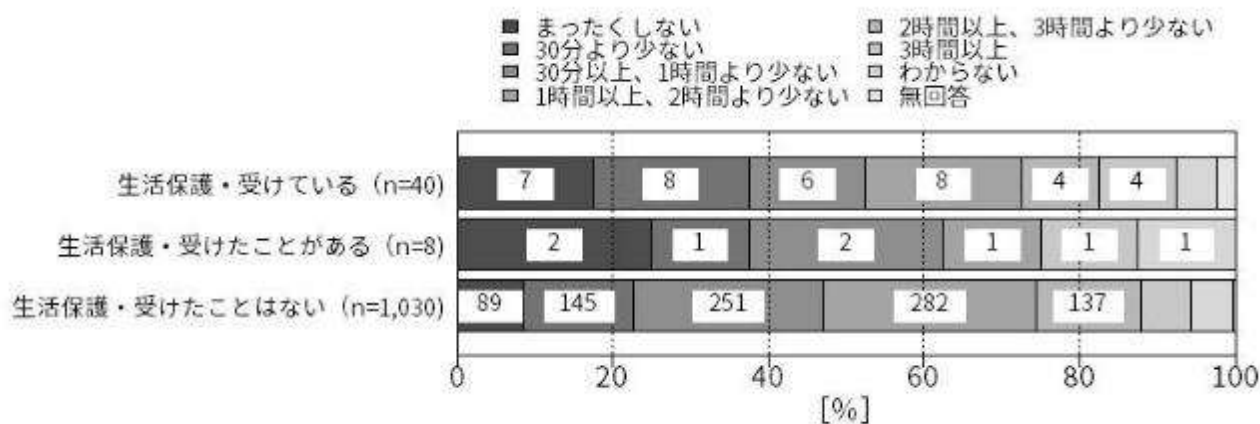
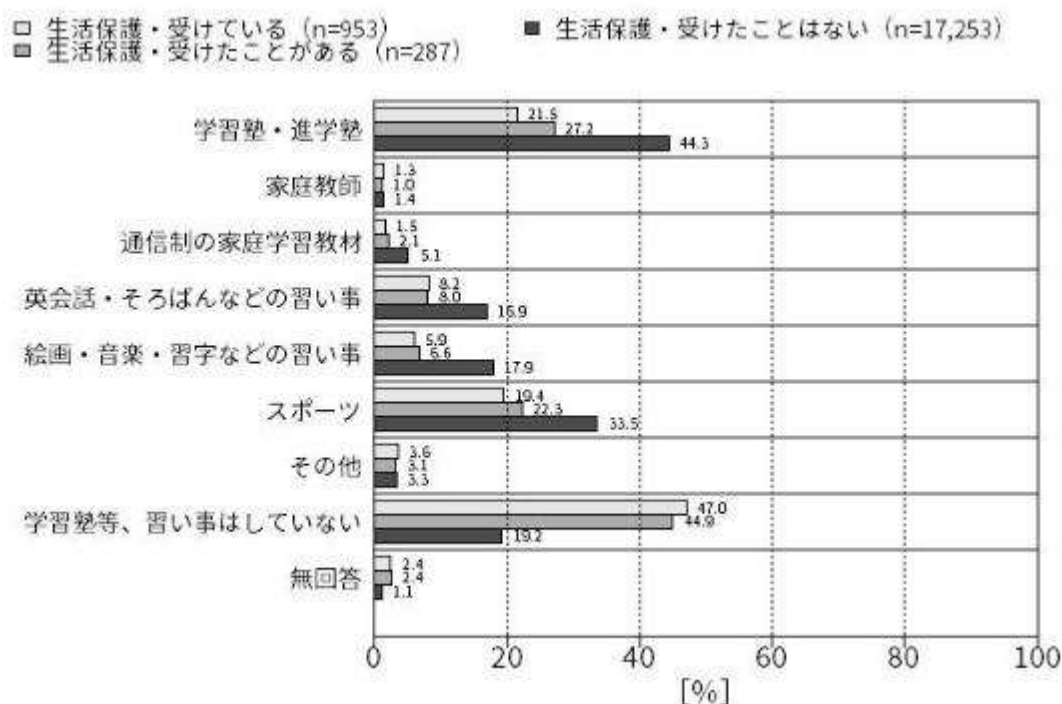


図 145. 生活保護の受給別に見た、授業以外の勉強時間

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、授業時間以外に勉強を「まったくしない」と回答した子どもが 17.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 8.6%であった。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

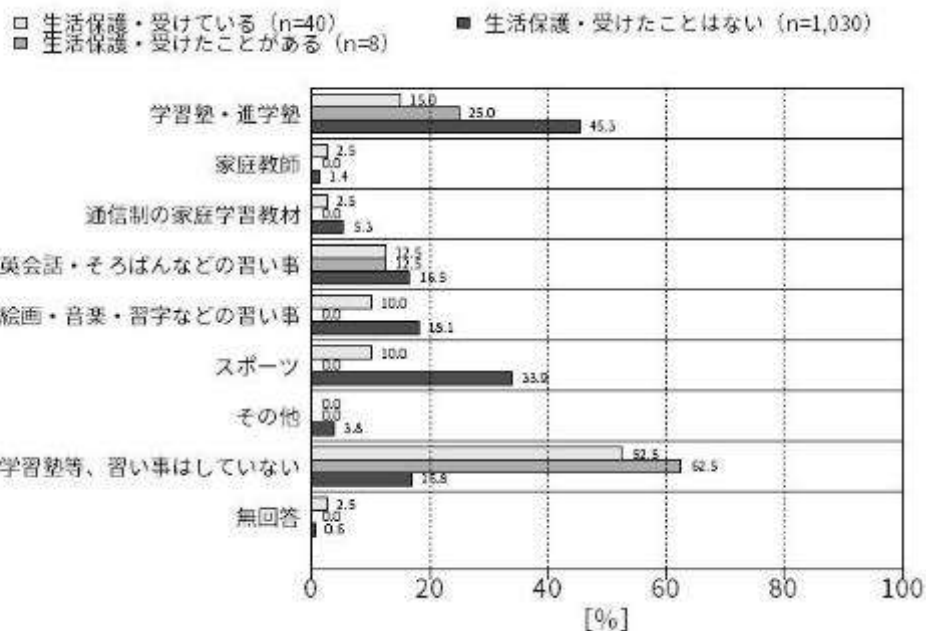
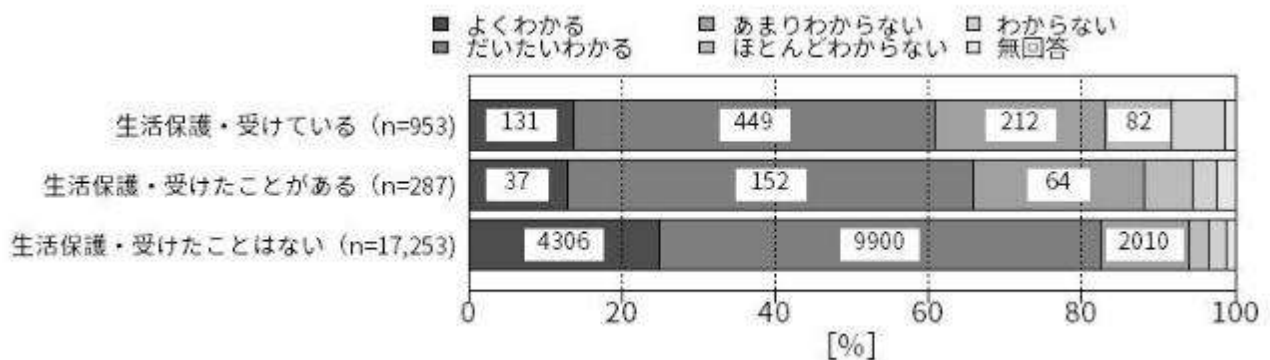


図 146. 生活保護の受給別に見た、学習塾等の利用状況

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、「学習塾等、習い事はしていない」と回答した子どもが 52.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 16.8%であった。

<大阪市 24 区>



<大阪市鶴見区>

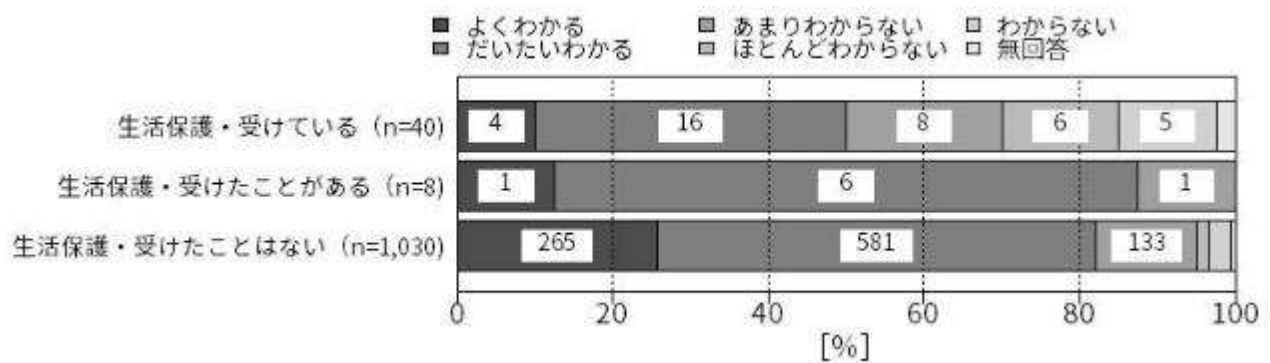


図 147. 生活保護の受給別に見た、学習理解度

生活保護を受けたことがある世帯は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、学校の勉強を「わからない」と回答した子どもが 12.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 2.8%であった。